第1学年 道徳科学習指導案

作成者：面川 怜花

1. 主題名 友だちによりそう心 B[友情、信頼] (全1時間)

2. 教材名 二わのことり (かがやけみらい 学校図書)

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

仲良くするとはどういうことか。また、助け合うとはどういうことか。「仲良くする」とは、ただ一緒にいて、何かをつくり上げるだけでなく、その過程の中で、相手に寄り添うやさしい心を互いにもつことが大切だと考える。また、「助け合う」とは仲良くするという過程の中で、相手を思うやさしい心を実行することだと考える。どちらも、互いを認め合い、補い合いながら、一人では見えなかった景色や、一人ではできなかった経験があり、「友達がいたからこそできた」という共に学んだ実感としてとらえさせることが大切である。「友達を助ける」という行為は、児童自身が経験の中ですでに知っていることであり必要だと感じているだろう。だから「友達と助け合うことが大切」と言うことも簡単にできるだろう。だが、実際にはどういう場面で助け合うということが起きたり、自分の行動や思いがそれにつながったりするかどうかはわかっていない。本授業では、まず、相手を思うやさしい心について十分考えさせたい

(2) 児童の実態について

4月当初の道徳開きで「どんな人になりたいですか。」という問いに対して、ほとんどの児童が心に関することについて発言していた。特に「優しい人になりたい」児童が多く、その対象は、主にお年寄りの方だった。一方「友達」というキーワードはなかった。実際の生活場面でも、友達を気遣う場面はあるが、それ以上に自分本位で活動する場面の方が多くみられる。思考と行動が一致していない児童が多いが、子ども成長段階として当然であろう。相手意識を育むために、役割演技を活用した学級経営を行ったり、他教科との連携を意識した道徳教育を繰り返したりしてきた。その中で「今まで学習した色々な心が、優しい心につながっている！」と発言する児童や、道徳の時間（自己を見つめる場面）で友達との喧嘩や言い合いから学んだことを、教材とつなげて話す児童が出てきており、友達を通して得た経験を学びとして受け止められるようになってきている。今回は、友達に目を向け寄り添うことについて、「みそさざいの友達を思うやさしい心」を通して考えさせたい。そして、友達という存在について考える機会とし、自分たちもみそさざいと同じような友達を思うやさしい心を持っていることに気付かせたい。

(3) 本時の教材について

[教材について] 同じ日にうぐいすとやまがらの両方から招待を受けたみそさざいは、はじめはうぐいすの家に行き、友だちともゆかいに過ごす。けれど、やまがらのことが気になり、そっとうぐいすの家を抜け出し、やまがらの家へ行く。やまがらはひとりぼっちでしょんぼりしていたところ、みそさざいが声をかけると大喜びで羽をバタバタさせ、小さな目に涙を浮かべて喜んでいた。その姿を見たみそさざいは、「やっぱり来て良かったな。」と思うのだった。

[考えさせたいこと] はじめは、うぐいすの家に行ったみそさざいが、やまがらの家に行くまでに悩み葛藤する心情や、「やっぱり来てよかったな。」と述べるみそさざいの心情など、みそさざいの心情の変化を通して、相手を思うやさしい心に迫りたい。

4. 本主題で育む資質・能力とそれを育成する主な手立て

学習場面	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
みそさざいが、うぐいすの家でやまがらのことを考えている場面	○感性・表現・創造の力	解決したい、よりよくしたいという場の設定
みそさざいが、「やっぱり来てよかったな」という場面	○よりよい社会への意識	試行錯誤が可能な場の設定

5. 本時のねらい

みそさざいの心情の変化と行動を通して友達に寄り添い友達のために何かをしたいという心情を養う。

6. 本時の展開

	学習活動 (◎中心発問○発問・児童の反応)	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入	1 友達だから…について考える ○「友達だから…」 「…」に言葉を付け足してみましょう ・優しい・楽しい・遊ぶ・助ける	◇友達について、自分なりの考えを持たせる。 ◇ワークシートの活用①
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">あなたならどうする？～みそさざいになって考えよう～</div> 2 教材を読んで話し合う ◎そっとうぐいすの家を抜けだし、やまがらの家に飛んで行くまでのみそさざいの気持ちを考えよう。 ・やまがらの家には誰か行ってくれるだろう ・でも、迷うな…後で行けばいいかな ・もしかしたらひとりぼっちかも ・自分がやまがらだったら、悲しい ・やまがらのお祝いもしたい ○「やっぱり、来てよかった。」といったときの、みそさざいの思いを考えよう。 ・迷っていたけれど、来てよかった。 ・やまがらが喜んでくれて、よかった。 ・最初から、来ればよかった。	◇迷いながらもみんなに合わせてうぐいすの家に行ったみそさざいの思いに共感させる。 ◇動作化をさせることで、言葉だけでは表せない思いを表現できる場を設ける。 ①個々に演じさせる。 ②何名か指名し、教師と児童のやりとりをする。 ・児童：みそさざい役 ・他34名：みそさざい役をしている児童の思いを理解するため聴く。 [動作化中の教師の繰り返し発問] ・みそさざいと小鳥たちの違い ・かわいそうだから行くのが友達なのか ・本当はみそさざいも、うぐいすの家にいたかったのではないか。 ◆みそさざいの心情の変化を考えることができるか。 ◆迷っていたけれど、やまがらに寄り添い、やまがらのやさしい心を行動にうつしたことから生まれた友情に気づくことができたか。
終末	3 自己を見つめる活動② ○「友達のために○○したいな。」と思うことはありますか。 ・一緒に遊ぼうって誘いたいな。 (本当は遊びたいって思っているかもしれないから)	◆導入で聞いた時との児童の心情の変化があれば、その理由を聴き価値の深まりを実感として押さえる。 ◇行動に対する思いを考えさせる。